

信じられないくらい天気のいいカミホロ、こんなの初めてのことだった。
今年もHWC M。北海道7人、内地から6人でヨジョヨ。

初日、渡辺と吉谷(内地クライマー)はカミホロ正面壁「フィンガー5」へ。

1P目：吉谷：凹核。今年は氷の発達がよくない。

2P目：渡辺：ゲストの吉谷に譲ろうと思ったが断られる。同じく発達悪くドライコンディション。プロテクションがとりづらい。が非常に難しいというわけでも無い。久々にバードピークをぶっこんだ。

3P目：吉谷：ハイライトシーン。エビの尻尾をぶち破りながらピークへ抜ける。

あっさりと書いたがそれなりに難しいかも。草つき、アイスがないので微妙なフッキング、アイゼン前爪でのカチへの立ちこみなどの連続。ランナーは取れないところは精神力と確実なリードが必要。でも落ちる気はしなかったから簡単なのかも。アイスが発達していればVくらいで快適だと思われる。

2日目は渡辺一山路(バビシェ)でカミホロ正面壁右リッジへ行ってきた。

前日、栗山一青木が別ラインで敗退している右リッジ。我々もどうなることか。楽しみではある。

そして新ルート開拓(?)となった。(仮称：右リッジWチムニールート)。スタートは右リッジの右面から。下部から入念にルートファインディングするだけでなく、側面から回り込んである程度登って傾斜・全体を確認。雪に覆われていて分かりづらいが、登攀予定ラインの上下、左右の地形から2つのチムニーらしきものがあるような気配がする。(雪のつき方、リッジの形状+勘)

1P目：渡辺：バンドを左にトラバース。バンドにあがるまでがワンポイント悪い。チムニー下でビレー。除雪が大変。

2P目：渡辺：チムニー!こんなのがあったんだ。ザックをぶら下げて越える。カミホロの中で最も狭いチムニーだろう。チムニーが終わったあとは除雪しながらツルツル岩のハング越えがフッキング激甘で難しい。しかも除雪しながらなのでパンプをしないようにこらえながら。それが終わり二つ目のチムニーらしきものの手前でビレー。

3P目：渡辺：チムニーの中に入るとすぐに雪の壁が覆いかぶさってくる。除雪するが全然進まない。チムニーの上に這い出ようとするも、これもまた除雪地獄、しかもテクニカルな除雪。トルキングで体を引き付けてロックオフしながら除雪。

しかし、1430を回った時点で敗退を決める。(ミーティング山行なので)

この先も悪く上はまだまだ手強いのが残っている。まあ楽しかったからよし。

懸垂2回で下降。横ナッツで1回目、安いナイフブレードで2回目。残置してしまった。取りに行かねば。右リッジはかなり良いルートだ、早く開拓の続きをやりたいと思う。

皆さんお疲れ様でした。泊めて下さったねこやなぎやま山荘の長原さん、ベースキーパーの吉野さん、主催者の中川さん。どうもありがとうございました。